


```
# 品名
sheet[14,0] = "コンサルティング"
# 単価
sheet[14,2] = 1200000
# 数量
sheet[14,3] = 2

# 別名保存
book.write('test.xls')
```

Spreadsheet.open(filename)メソッドでファイルのパスを指定することで、Excelファイルを開くことができます。

book.worksheet(index)メソッドでindexで指定したシートへの参照を取得しています。

このシートオブジェクトに対して、sheet[行番号, 列番号]を指定すると、そのセルの値を取得したり、セルに値を入れたりすることができます（ただし、現在のspreadsheetでは計算式が入っているセルの計算結果を取り出す機能は未実装です）。

セルに値を入れる際には、

```
sheet[4,0] = "(株)レシビ出版"
```

のようにRubyの文字列オブジェクトを入れれば文字列として値が入りますし、

```
sheet[14,2] = 1200000
```

のようにRubyの数値オブジェクトを入れれば数値として値が入ります。

また、

```
sheet[3,4] = Time.now
```

のようにRubyのTimeオブジェクトを入れれば時刻として値が入ります（ただし、Excel上で書式「日付」に設定されている必要があります）。

上記のスク립トを実行すると、次のように値が埋め込まれたtest.xlsというファイルが生成できます。

▼実行結果 (生成されたファイル: test.xls)

品名	単価	数量	金額
コンサルティング	1200000	2	2400000
小計			2400000
消費税			120000
合計			2520000

spreadsheetではこのほかにも、Excelファイルを新規作成したり、シートの追加や削除をしたり、セルに簡単な書式設定（右寄せ左寄せ、罫線、文字色や背景色など）をすることもできます。詳しくは以下のWebサイトを参照してください。

参考 spreadsheet
<http://spreadsheet.rubyforge.org/>

参考 spreadsheet:Guide
http://spreadsheet.rubyforge.org/files/GUIDE_txt.html